

福岡市成果指標

市の取り組みの成果 平成18年度の調査結果をお知らせします

市は毎年度、最新の調査結果による「成果指標」の達成状況を公表しています。平成18年度の調査結果がまとまったのでお知らせします。

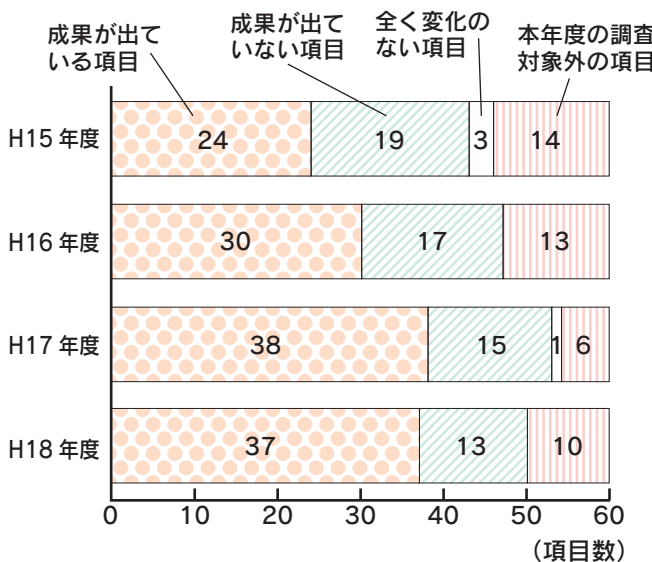
成果指標とは、市民、NPO、企業、大学、行政などが共働してまちづくりを進めていく中で目指す目標値のことです。市は「福岡市新・基本計画」で示している市の望ましい姿(目標像)を、18の政策目標と、平成27年を目標年次とした政策目標(この「成果指標」として掲げています。

成果指標の最新調査結果は、毎年度公表し、市民の皆さんと共有しながら目標達成に向けて共働の取り組みを進めます。また、経年的な動向を踏まえ、定期的に評価を行い、施策や事業の見直しに生かしていきます。

調査結果の概要を紹介したパンフレット「ぶくおかカルテ」を各区役所企画課、情報プラザ(市役所1階)などで配布。

調査結果を詳しく分析した「福岡市新・基本計画の成果指標に関する意識調査結果報告書」は市総合図書館、各区の図書館、情報プラザなどで閲覧できます。すべての項目に関して

【平成15年～18年度の調査結果(全市編)】



市を訪れる観光客は増加

新・基本計画の成果指標は、全市編60指標項目と区基本計画40指標項目の合計100指標項目あります。新・基本計画策定時の平成14年度における現状値と、今回(平成18年度)の調査結果を比較すると、全市編の全60指標のうち、37指標項目が目標値に近づいており、成果が出ています。しかし、成果が出てい

る項目の中でも目標値への達成率が低いものもあり、今後の課題と考えられます。成果が出ていない項目は平成17年度より2項目減り、13項目となりました。(上図参照)

主な指標の数値結果を見てください。

「学習活動に参加している市民の割合」は、32.6%から38.1%と増えています。学習活動の内容を見てみると、「スポーツ・レクリエーション」が17.1%と最も多く、次いで「趣味的なもの」(15.5%)となっています。「公民館を利用した市民の割合」は23.5%で、平

成14年から17年までの調査結果と比較しても利用状況に大きな変化はみられませんが、年代別では、40代、60代が32.5%で最も多く、ついで70代以上が27.1%、30代24.3%と続き、20代の利用率は5.2%で1割にも満たない状況です。

「市民のマナー評価」で肯定評価が最も高いのが「こみだしのルール」です。75.1%と7割を超えています。否定評価は「こみや空き缶・タバコのポイ捨て」が62.9%、「自転車の運転マナー」が61.9%の順になっています。

温室効果ガスの総排出量は、平成2年度比で23%も増加(平成16年度)。これは、世帯数、業務床面積、自動車保有台数、業務・家

庭部門でのエネルギー消費量の増加によるものと考えられます。

「まちの魅力」を創出

市を訪れる観光客数は約164万人と、ここ数年増加の一途をたどっています。宿泊客数は平成13年度比で見ると増えていますが、平成16年度からは2年連続で減少。これは高速道路や鉄道の整備など、市へのアクセスが便利になったことで、日帰りの観光客が増えたことなどが影響していると考えられます。



We Love天神協議会が行っている社会実験「天神ピクニック」。歩行者用道路にオープンカフェを設置した

4月にはガイドラインのよりどころとなる「天神」まちづくり憲章を制定。笑顔のたえない「ストーリー」く、く「おばあちゃん」も「アジアの人」も安心といった天神のまちづくりならではのフレーズが並びます。

出口教授は「文化や言葉の違つ人たちが、安心して遊びに来ることのできる天神にしたい」との思いで制定したと語ってくれました。

We Love天神協議会での取り組みのように、ショッピング以外の魅力を作り出すことで今後の天神、市全体の集客につながっていくといえるでしょう。

【主な指標の数値結果】

Table with 4 columns: Year (H14, H18, H27 target), and rows for various indicators like childcare, learning participation, citizen library use, etc.

※平成18年7月に策定した新しい計画(第3次市地球温暖化対策地域推進計画)による目標値はH16年度と比べて、家庭部門:世帯あたり-8%、業務部門:延床面積あたり-14%、運輸(自動車)部門:1台あたり-8%



軽自動車税の納期限は、5月31日です。～コンビニでも納付できます～